

機能訓練指導員

日常生活動作を訓練しながら支援する。



機能訓練指導員を仕事に選んだ理由は?
 人と関わることが好きで介護の分野に興味を持ち、「機能訓練指導員」という仕事の「失った機能・能力」ではなく、「今ある機能・能力」に着目して、「一人一人が自分らしく暮らしていけるように支援する。」という考えに共感して、未経験の分野でしたが、一から学んでいける事にやりがいを感じて選びました。

体験談をお聞かせください
 体の片側が麻痺で動かない利用者さまの「自分で自由に動きたい」という思いを少しでも叶えてあげたいと思い、もう片側の動く手や足のみで操作ができるように車椅子を調整し、自由に車椅子移動ができるようにしました。今では時々テラスまで一緒に散歩に行き、昔話を聞ける大切な時間を持つことができています。利用者さまを集めて歌を歌ったりもするのですが、大きな声を出すのが得意ではない方も歌だと大きな声で歌ってくれたりします。利用者さま一人一人のできる事を見つけて、それをお手伝いできることが、この仕事の魅力だと思います。

学生にメッセージ!
 自分を信じてコツコツと努力を積み重ねていってください。私は、30歳を過ぎてからやりたいことが見付き、夜間学校に通い学び直しました。自分の可能性を信じて何事にもチャレンジしてください。応援しています!



名古屋市
中川区
機能訓練指導員
藤田 寛信さん
社会福祉法人紫水会
オーネスト堀川 ※取材時(2023年)

機能訓練指導員 ・ 管理栄養士 って何するの?
介護業界の専門家にインタビュー!



多職種連携のポイント
専門性は“行為”にあるのではなく、“視点”にある!

皆さんが、介護職員、看護師、機能訓練指導員、理学療法士、作業療法士、管理栄養士等、様々な専門家の仕事を考えたとき、おそらく、その専門家が行う“行為”をイメージするのではないのでしょうか。

もちろん“行為”も重要ですが、実は、それぞれの専門家がその利用者に対して向ける“視点”に、むしろその専門性が顕著に現れます。例えば、入浴介助を行う場合、看護師は、利用者の方の肌の不調や疾患に気づくことがあるかもしれません。リハビリテーションの専門家は、浴槽への入り方や座り心地の状態に注目し、介護職員は、利用者の方の表情や声色から満足感や疲労感を感じとり声をかけるでしょう。



このように介護の現場では、それぞれの専門家が異なる“視点”で利用者の方を気かけ、その情報を専門家間で共有し連携することで、質の高い介護を実現します。

また、こうした連携により専門家同士が相互理解を深めることで、それぞれが、介護に関わる専門家として成長することにもつながっています。

管理栄養士

調理や発注、献立作成や栄養マネジメントを行う。

管理栄養士を仕事に選んだ理由は?
 食べる事に関わる仕事がしたい、人を笑顔にできる仕事がしたいとずっと思っていたのが管理栄養士に興味を持ったきっかけです。食べる事は最期まで続き、生きる上で絶対に必要なことなので、美味しい食事を提供して、心と体の健康を支えられる管理栄養士を仕事に選びました。

体験談をお聞かせください
 学生の頃の実習では、グループで100食作る感じだったのですが、就職したらその100食を一人で... (笑) でも、今では一人で150食作れるようになりました。普段は調理場で仕事をしていて、直接入居者さまと関わる事が多くはないので、入居者さまが食事をしているところを見て周り、食事が取れているか、食事形態が合っているかなど健康状態を直接確認できるミールラウンドや、入居者さまが食べたいものを一緒に作る調理レクリエーションは入居者さまのことを直に知ることができるので嬉しいです。

学生にメッセージ!
 たくさん勉強して、たくさん遊んで学生生活を楽しんでください!



名古屋市
中川区
管理栄養士
井上 香亜衣さん
社会福祉法人紫水会
オーネスト戸田川 ※取材時(2023年)